

“the whole truth, and nothing but the truth about Jesus”

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication

デイリー・ジーザス・ニュース #282

木曜日...指導と逮捕の日：

最後の晩餐

イエスはユダを裏切り者と特定する

ヨハネ13:21-30 (並行聖書：マタイ26:21-25、マルコ14:18-21、ルカ22:21-23)

=====

21こう言うってから、一同が食卓に着いて食事をしているとき、イエスは心を騒がせて、あかしを言われた、
「よくよくあなたがたに告げます。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ろうとしています。「私と一緒に食事をしている人よ。」

彼らは深い悲しみを感じ始め、一人ずつこう言いました。「まさか私じゃないわね？」

「十二人の一人だ」とイエスは答えた。マタイ訳「わたしと一緒に鉢に手を浸した者が、わたしを裏切るだろう。人の子は、彼について書いてあるとおりに去るだろう。しかし、人の子を裏切る者は災いを受ける。彼は生まれてこなかった方がよかった。」

22弟子たちは互いに顔を見合わせ、イエスが自分たちのだれのことを言っているのか分からず途方に暮れた。彼らは、自分たちのうちのだれがそんなことをしたのだろうか、互いに論じ始めた。

23そのうちのひとりで、イエスが愛しておられた弟子が、イエスのそばに座っていた。(24)シモン・ペテロがこの弟子に手振り「だれのことを言っているのか、尋ねなさい」と言った。

の胸に寄りかかって尋ねた。「主よ、それはだれですか。」

26 イエスは答えて言われた。「わたしがパン切れを浸して与える者がその人です。」それから、イエスはパン切れを浸して、イスカリオテのシモンの子ユダにお与えになった。

イエスを裏切るはずだったユダは言いました。「まさか私ではありません、ラビ？」

イエスは答えました。「そうです、あなたです。」

27ユダがパンを受け取るとすぐに、サタンが彼に入りました。そこでイエスは彼に言われました。「あなたがしようとしていることを、すぐにしなさい。」

28 しかし、食事の席にいただれも、イエスがなぜそのようなことを言われたのか理解できませんでした。29 ユダが金銭の管理をしていたため、ある人たちは、イエスがユダに祭りに必要な物を買うように、あるいは貧しい人々に施しをするように言われたのだと考えました。

30 ユダはパンを食べるとすぐに出て行った。そして夜になっていた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれる

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの上の部屋
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	D. 木曜日：指導と逮捕の日
	最後の晚餐
タイトル	イエスはユダを裏切り者と特定する

コメント：

今日の朗読では、イエスはユダに最後の手を差し伸べました。特にヨハネによる福音書の背後には、ユダに対するイエスの愛の行為が描かれています。このテーマを辿ってみましょう。

が「ご自分の民を最後まで愛された」様子を描写しています。足を洗う行為は、ユダに対しても、その愛の表れでした。イエスは、食事の席で裏切り者に罪を認め、悔い改める機会を何度も与えながら、ユダの肉体的な清めの必要を満たされました。

イエスはユダを自分の左側、つまり名誉ある席に座らせました。「**イエスが愛した弟子**」である幼いヨハネは、彼の右側、最も名誉ある席に座らせました。これは、過越祭の伝統的な食事において末っ子が座り、セーデルの伝統である神の救いの歴史に関する質問に答える席でした。ユダを名誉ある席に座らせることで、イエスは彼に手を差し伸べ、敵を愛したのです。

足を洗った後、イエスは皆が清いわけではないことを指摘しました。ユダが既に葛藤を抱え、罪悪感の高まりが彼を苦しめていることをイエスは知っていました。イエスは詩篇41篇9節を引用し、主が特に自分のことを指していることをユダに確信させました。同時に、主は他の弟子たちの前でユダを辱めたり嘲笑したり

しないよう、あらゆる手段を講じました。公然とユダを非難したり、叱責したりすることはありませんでした。ユダに怒りを抱くことも、報復することはありませんでした。ただ、最後までユダを愛し続けたのです。

使徒たちがイエスに「まさか私ではないでしょう」と尋ねた時、彼らはギリシャ語の文法構造を用いて、その質問に対する答えとして「いいえ」を予期していたことを示しています。つまり、彼らは皆、自分がイエスを裏切った者ではないと心から信じており、イエスが彼らを裏切ったとは考えていなかったのです。

ユダが同じ質問をする前に、ペテロはヨハネを通してイエスに裏切り者の正体を問い詰めました。イエスは友情の印として、パンをシチューの入った鉢に浸し、ユダに与えました。ユダはパンを取って食べましたが、そうすることはイエスに自分が裏切り者であることを告白することだと重々承知していました。しかし、それだけではありませんでした。

するとユダは、イエスの「ノー」という答えを予期するような形で、同じ質問をしました。「まさか私ではないでしょう？」ユダもイエスも、この問いかけがユダにとって嘘であることを知っていました。ユダはその夜、イエスを裏切ろうとしていました。そこでイエスは愛を込めて真実を語りました。「**そうです、あなたです。**」イエスはユダに直接、しかし静かに、そして繊細に対峙しました。ユダの嘘を真実として受け入れることはしませんでした。ユダは悔い改める必要がありました。

ユダがイエスの罪を認める機会を何度も得た後、サタンの誘惑はユダの中に根付き、完全な反逆へと発展しました。ユダは、罪を認め、赦しと憐れみを受けるようにという主の愛ある呼びかけをすべて拒絶することを選択しました。裏切り者はイエスの宣教の扉を閉ざし、身を隠せる闇へと逃げ去りました。罪は光を憎むのです。

ユダに対するイエスの愛の粘り強さと忠実さは、実に驚くべきものでした。イエスは聖書とユダの心に関するご自身の知識から、ユダが自分を裏切ることを知っていました。しかし、それでもイエスは裏切り者に最後の瞬間まで手を差し伸べました。

これは、十字架に釘付けにされたイエスが敵の赦しを祈ったのと同じ無条件の愛です。この愛は三位一体の神の栄光であり、イエスの御顔に明るく輝いています。この愛は私たちの生ける希望です。

応用：

イエスは、たとえ同じ人が一日に七度も同じ罪を犯し、赦しを求めてやって来ても、惜しみなく赦すようにと命じられました。イエスはユダとの関係において、まさにそのような愛を示されました。

何の役にも立たないとわかっている、誰に連絡を取り続ける必要があるのでしょうか？

神の御心だからというだけの理由で、またしても許さなければならない人がいるのでしょうか。

神があなたに与えてくださった慈悲と恵みの豊かさに対して、あなたはどのように感謝しますか？